



FIコン2 CBR250R用 取扱説明書

商品番号：05 04 0018

適応車種

HONDA

CBR250R(MC41-1000001~1399999)

- ・この度は、弊社製品をお買い上げ頂きまして有り難うございます。使用の際には下記事項を遵守頂きますようお願い致します。
- ・取り付け前には、必ずキット内容をお確かめ下さい。万一お気付きの点がございましたら、お買い上げ頂いた販売店にご相談下さい。

イラスト、写真などの記載内容が本パーツと異なる場合がありますので、予めご了承下さい。

～特徴～

弊社独自開発のフューエルコントローラー FIコン がモデルチェンジし、新たに FIコン2 となりました。

従来のFIコンから回路を全て新設計し、燃料噴射量の補正だけでなく、純正ピストン及び弊社製ハイコンピストン装着車に於いては、純正ECUのレブリミットを超える12000rpmまでの使用が可能となります。

(ボアアップピストン装着車のレブリミットは11000rpmまでとなります。)

非常にコンパクトなボディながら、弊社製エンジンパーツに合わせてセッティング済みの3次元補正マップを各種内蔵しており、エンジン仕様に合わせたセッティングをFIコン2本体のロータリースイッチで設定可能です。設定変更の際にパソコンなどは必要ありません。

また、内蔵の補正マップを全体的に濃い目・薄い目に本体のロータリースイッチで微調整出来る機能も備えました。

ご使用前に必ずお読み下さい

取扱説明書に書かれている指示を無視した使用により、事故や損害が発生した場合、弊社は賠償の責を一切負いかねます。

当製品を取り付け使用し、当製品以外の部品に不具合が発生しても当製品以外の部品の保証は、どのような事柄でも一切負いかねます。

製品を加工等された場合や取り付けられた場合は、保証の対象にはなりません。

他社製品との組み合わせのお問い合わせはご遠慮下さい。

当製品は、上記適応車種の車両専用用品です。他の車両には取り付け出来ませんのでご注意下さい。

補修部品に付きましては商品番号及び図中の番号にてお申し込み下さい。尚、不明な点がございましたらお買い求め販売店にお問い合わせ下さい。

当製品は純正ECUの噴射回路に割り込ませて噴射時間を補正する製品です。

構造上、万一のトラブル時(本製品の故障や配線の不具合)には、燃料噴射がストップしてしまう可能性があります。

当製品に入っている燃料噴射補正データは、弊社の製品を取り付けた弊社車両でテストした結果を元に作成したデータです。弊社テスト車両と違う改造をしている場合や、他社製部品を併用している場合等には、当製品では良好なセッティングが出せない可能性があります。

又、弊社製品を使用しているも、各部品の個体差、外的要因(気温や標高及びライダーの体格等)で、弊社の意図するセッティングが出ない可能性もあります。

お客様のご使用になられる車両で、セッティングが合っているかを必ず確認の上で走行して下さい。

純正サービスマニュアルをご用意下さい。

純正ECUのレブリミット回転数を超えてエンジンを回転させる事が出来るようになりますが、メーカー純正のレブリミットを超える使用方法となりますので、ご自身の責任に於いてご使用下さい。

日本仕様として正規販売されているCBR250R(MC41)でのみ動作確認をしております。

並行輸入車への対応につきましては、弊社では分かりかねます。

以上の事を予めご理解頂いた上でご使用下さい。

ご使用にあたっての注意点

併用出来ない部品について。

社外品のH.I.D.キットはバラスト/インバーター(電圧変換装置)からデジタル回路に悪影響を与える高電圧ノイズが出る場合がほとんどで、製品故障や動作不良の原因となりますので、絶対に同時装着しないで下さい。

社外品の点火装置(イグニッションコイルやプラグコード)は点火電圧のアップに伴う、放射ノイズの増大により誤動作や製品故障の原因となりますので使用しないで下さい。

社外品の発電装置は発電量の不足や電圧波形の違いにより故障の原因となりますので、使用しないで下さい。

当製品は防水・防滴構造ではありません。

当製品は防水・防滴構造ではありませんので、雨や水がかかると、本体内に水が浸入し故障する可能性があります。

洗車時も同様にご注意下さい。本体に水が入ってしまった場合は直ちに使用を止めて下さい。

又、付属のスイッチ部分が透明のパネルを使用する際、湿度が高い時や急激な温度変化があった場合などに、本体が湿気を吸い込み、パネルの透明部分に曇りが発生する事があります。

当製品のボディーは樹脂製です。

劣化を防ぐ為に長期、野外にバイクを置く場合はカバー等をかけて下さい。炎天下の中など過酷な条件下で長期放置しますと、樹脂やゴム製部品の劣化や変形が考えられます。

絶対に分解しないで下さい。

大変危険ですので分解や改造を行わないで下さい。又、お客様で分解された場合、点検や修理をお受けする事が出来なくなりますのでご注意下さい。

激しい衝撃を与えないで下さい。

オフロード走行やジャンプなど、本製品に強い衝撃が伝わる事は行わないで下さい。

衝撃により内部部品の脱落や断線による修理不能な故障や、本体ケース破損の恐れがあります。

お手入れについて

頑固な汚れがある場合は水に少量の中性洗剤を溶かし、ゆっくり丁寧に汚れを落として下さい。

揮発性のあるもの(シンナー・アルコールなど)やコンパウンドで使用すると、樹脂部分の変質の恐れや、パネルが曇ってしまいますのでご注意下さい。

注意 この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害が想定される内容を示しています。

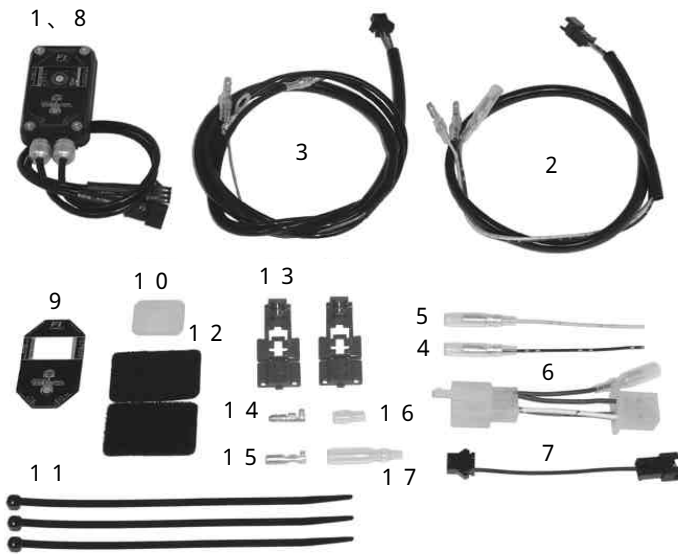
- ・一般公道では、法定速度を守り遵法運転を心掛けて下さい。
(法定速度を越える速度で走行した場合、運転者は道路交通法、速度超過違反で罰せられます。)
- ・作業等を行う際は、必ず冷間時(エンジン及びマフラーが冷えている時)に行ってください。(火傷の原因となります。)
- ・作業を行う際は、その作業に適した工具を用意して行って下さい。(部品の破損、ケガの原因となります。)
- ・規定トルクは、必ずトルクレンチを使用し、確実に作業を行ってください。(ボルト及びナットの破損、脱落の原因となります。)
- ・製品及びフレームには、エッジや突起がある場合があります。作業時は、手を保護して作業を行ってください。(ケガの原因となります。)
- ・走行前は、必ず各部を点検し、ネジ部等の緩みが無いかを確認し緩みがあれば規定トルクで確実に増し締めを行ってください。
(部品の脱落の原因となります。)

警告 この表示を無視した取り扱いをすると、人が死亡したり重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- ・走行中、異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停止させ、走行を中止して下さい。(事故につながる恐れがあります。)
- ・作業を行う際は、水平な場所で車両を安定させ安全に作業を行ってください。(作業中に車両が倒れてケガをする恐れがあります。)
- ・点検、整備は、取扱説明書又は、サービスマニュアル等の点検方法、要領を守り、正しく行って下さい。
(不適当な点検整備は、事故につながる恐れがあります。)
- ・点検、整備等を行った際、損傷部品が見つければ、その部品を再使用する事は避け損傷部品の交換を行ってください。
(事故につながる恐れがあります。)
- ・製品梱包のビニール袋は、幼児の手の届かない所に保管するか、廃棄処分して下さい。(幼児がかぶったりすると、窒息の恐れがあります。)

性能アップ、デザイン変更、コストアップ等で製品および価格は予告無く変更されます。予めご了承下さい。
クレームについては、材料および加工に欠陥があると認められた製品に対してのみ、お買い上げ後1ヶ月以内を限度として、修理又は、交換させて頂きます。ただし交換工賃等の一切の費用は対象となりません。正しい取り付けや、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。
なお、レース等でご使用の場合は、いかなる場合もクレームは一切お受け出来ません。予めご了承下さい。
この取扱説明書は、当製品を破棄されるまで保管下さいます様お願い致します。

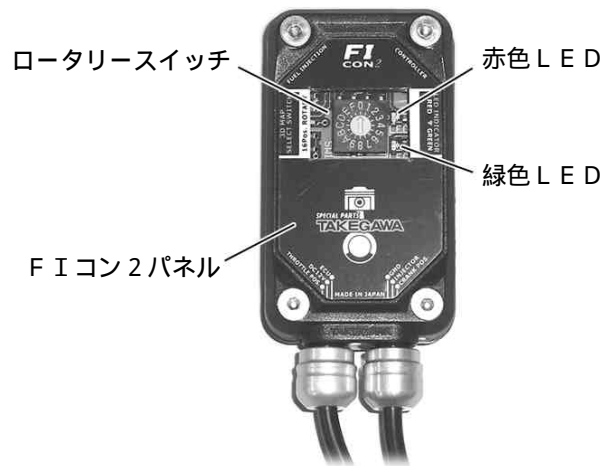
~商品内容~



番号	商品内容	数量	リペア品番	入数
1	FIコン2 Assy.	1		
2	ハーネス-1 Comp.	1	32210-KYJ-T00	1
3	ハーネス-2 Comp.	1	32220-KYJ-T00	1
4	サブコード-1(黒/青コード)	1	32231-KYJ-T00	1
5	サブコード-2(黄コード)	1	32232-KYJ-T00	1
6	ブランチハーネスComp.	1	32240-KYJ-T00	1
7	レストアハーネスComp.	1	38772-FC3-T00	1
8	FIコン2 パネル(スイッチ部 穴開き)	1	38775-FC3-T00	1
9	FIコン2 パネル(スイッチ部 透明)	1		
10	ラバーキャップ	1	00-05-0045	1
11	タイラップ 150mm	3	00-00-0135	10
12	マジックテープセット	1	00-00-0150	1
13	エレクトロタップ	2	00-05-0015	5
14	プラグ(ギボシオス端子)	1		
15	リセブタクル(ギボシメス端子)	1		
16	プラグキャップ(ギボシオスカバー)	1	00-00-0270	5 set
17	リセブタクルキャップ(ギボシメスカバー)	1		

8. FIコン2 パネル(スイッチ部 穴開き)は、1. FIコン2 Assy. に出荷時貼り付け済みです。
リペアパーツは必ずリペア品番にてご発注下さい。品番発注でない場合、受注出来ない場合もあります。予めご了承下さい。尚、単品出荷出来ない部品もありますので、その場合はセット品番にてご注文下さいます様お願い致します。

~各部名称~



～取 り 付 け 要 領～

はじめに

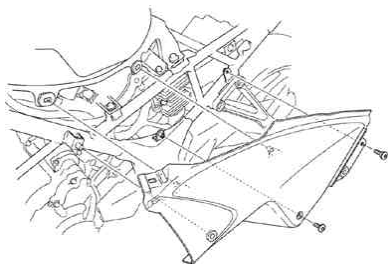
本製品は、純正の PGM - F I システムが問題なく作動している事を前提として開発されています。

PGM - F I システム自体にトラブルや不調がある場合は、本製品を取り付けても正しく作動しなかったり、性能が発揮出来ないばかりでなく、本製品をはじめ他の箇所が故障する原因にもなりかねませんので、必ず PGM - F I システムにトラブルが無い事をご確認頂いた上で、取り付け・使用して下さい。

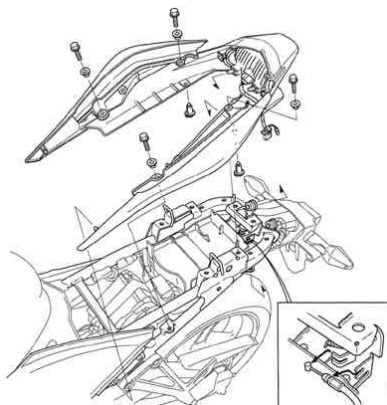
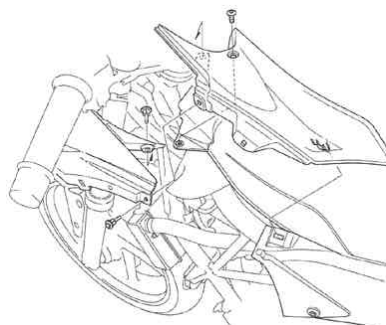
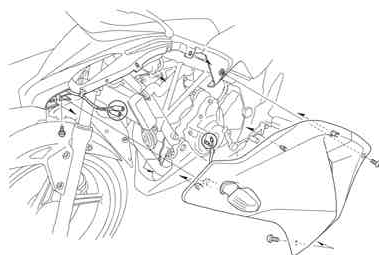
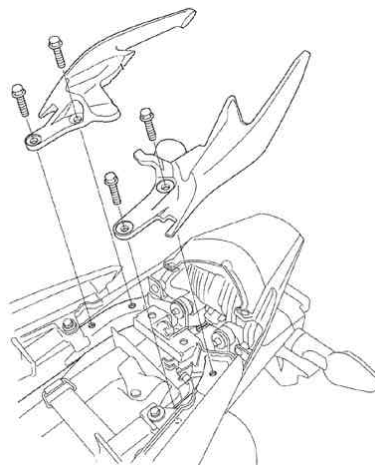
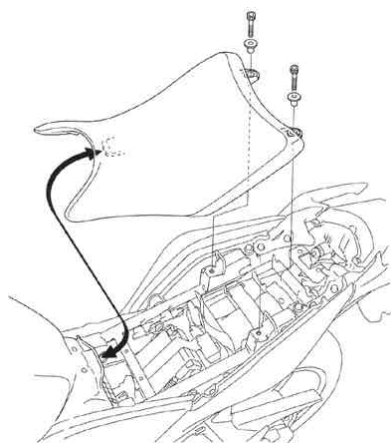
また、作業は水平で安全な場所でメンテナンススタンド等を用いて、車両をしっかりと安定させてから開始して下さい。

外装部品などの取り外し

1. 純正サービスマニュアルを参照し、サイドカバーを取り外します。



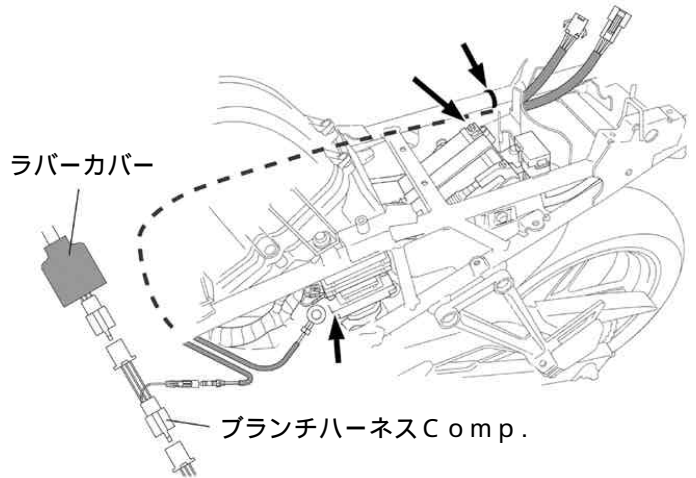
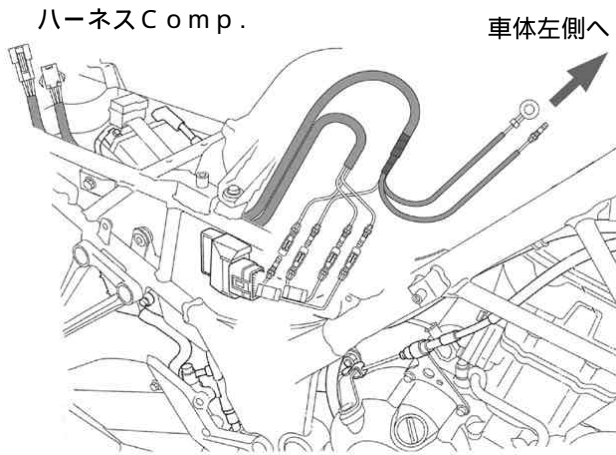
サイドカバーを取り外すには、シングルシート・グラブレール・ミドルカウル・フューエルタンクサイドカバー・リアカウルなどの脱着が必要となります。



2. バッテリー マイナス端子の接続を外しておきます。

FIコントローラーの配線接続

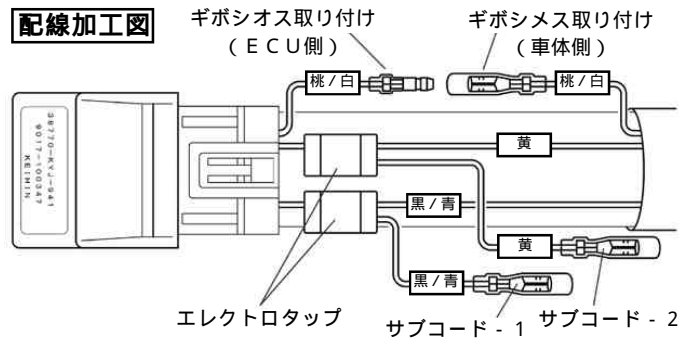
図中番号の順に、注釈を確認しながら作業を行って下さい。
 なお、本取扱説明書中のコード色表記は、ベース色/ライン色としています。
 桃/白というコードは、桃色の被覆に白色のラインが入っているコードを示します。



純正ECUに接続されているメインハーネスのカバーを開き、キット付属のサブコード - 1 (黒/青コード) とサブコード - 2 (黄コード 下記△注意参照) を、メインハーネスの同色コードにそれぞれエレクトロタップで接続します。桃/白コードのECU側にギボシオス端子を、メインハーネス側にギボシメス端子を取り付けます。

- △注意：桃/白コード 切断時に、ECU側のコード長を短く切断しすぎるとギボシ端子を取り付け出来なくなります。切断位置に注意して加工作業を行って下さい。
 また、桃/白コード に取り付けるギボシ端子のオス・メス方向は非常に重要です。
 もし反対に取り付けた場合、エンジンはかかりません。
 △注意：メインハーネスには黄色のコードが2本あります。
 必ず緑/白コードと、黄/赤コードの間にある黄色のコードに接続して下さい。

配線加工図



キット付属のハーネス - 1 Comp. とハーネス - 2 Comp. を、車両のECUあたりからタンデムシート下の工具収納スペースまで、フレームの内側を通します。

ハーネス - 2 Comp. のギボシオス端子が接続されている青/黄コードと、丸アース端子が接続されている緑コードを、エアクリナー下エンジン後部のメインハーネスと同じ場所を通し、車両左側まで取り回します。

キット付属のブランチハーネスComp. を車体左側ラバーカバー内の6Pカブラに割り込ませ、ブランチハーネスComp. から出ている青色コードに青/黄コードのギボシ端子を接続します。

車体左側の純正アース端子と共に、丸アース端子を共締めします。

△注意：必ず規定トルクを守る事。

トルク：1.2 N・m (1.2 kgf・m)

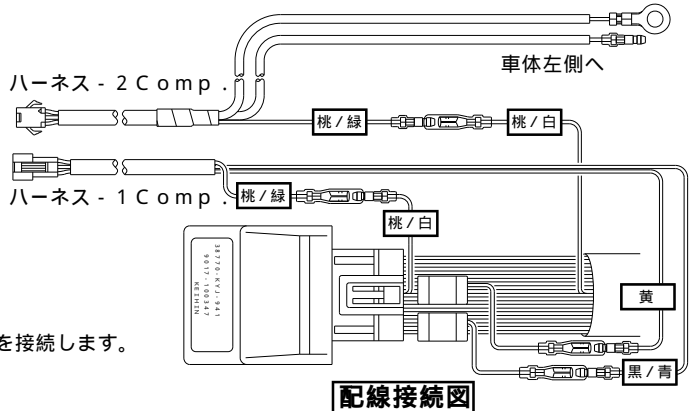
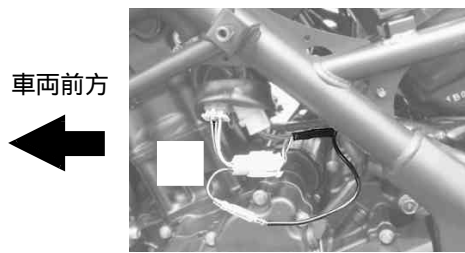
ハーネス - 1・2 Comp. の桃/緑コード2本を純正ハーネスの桃/白コードへ、黒/青コードをサブコード - 1へ、黄色コードをサブコード - 2へ、それぞれ接続します。

△注意：製造の都合上、キット付属のハーネスComp. には桃/緑コードを使用しております。純正ハーネスの桃/白コードへはハーネスComp. の桃/緑コードを接続して下さい。

配線に間違いが無いか確認し、問題なければバッテリーのマイナス端子を接続します。

ハーネス - 1・2 Comp. をタイラップでフレームに固定します。

FIコン2 Assy から出ている3Pコネクタを、それぞれハーネス - 1・2 Comp. に接続します。



FIコン2の使用法・セッティングについて

△重要：FIコン2は初期設定が必要です。

初期設定を行わなければエンジンを始動する事は出来ません。

△注意：ロータリースイッチは、中心部の矢印が指し示す数字もしくはアルファベットが設定値となります。

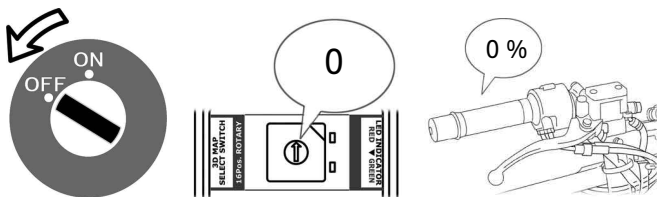
16進数表記となっていますので、“A”は10“F”は15相当となります。

・スロットルポジションセンサー / MAP種類選択の初期設定

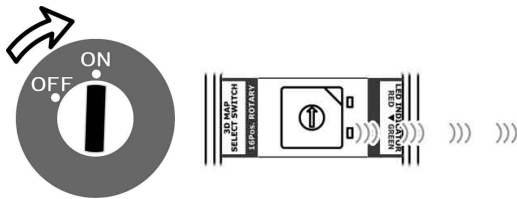
車両にFIコン2を取り付けた初回や、スロットルボディのストッパースクリュー（全閉位置を調整するスクリュー）を調整した場合など、スロットルポジションセンサーの学習が必要になります。

また、エンジン仕様を変更したりして使用するMAPを変更する場合も、下記手順に従って学習作業を行って下さい。

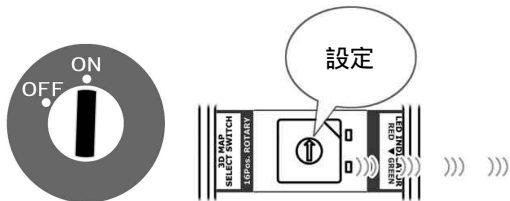
1. キーをOFFにし、ロータリースイッチを“0”に設定します。
スロットルグリップは全閉状態にしておいて下さい。



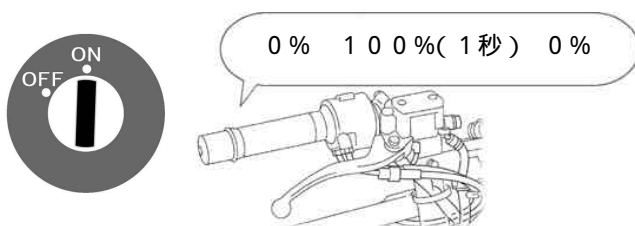
2. キーをONにします。赤と緑のLEDが同時に点灯し、緑LEDが3回点滅した後、赤・緑ともに消灯します。
その後、2秒程経過すると緑LEDが点滅し始めます。



3. この状態のまま、エンジン仕様に合わせたSW番号にロータリースイッチを設定します。
本取扱説明書P.6『エンジン仕様別MAP選択表』をご参照下さい。



4. スロットルグリップをゆっくりと全開にし、1秒程度全開のまま保持した後、ゆっくりと全閉に戻します。



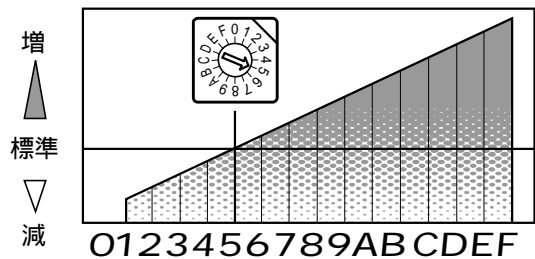
5. 全閉に戻すと緑LEDの点滅が止まり、消灯したままになります。
緑LEDの点滅が消灯になった段階で、各車両ごとのスロットルポジションセンサー全閉・全開位置の学習と、MAP種類の選択が、FIコン2の内部メモリに正常に学習されました。
(キーOFFにしたリバッテリーを外しても、学習内容は消えません。)

6. キーをOFFにし、ロータリースイッチを“5”に設定します。

△注意：FIコン2のロータリースイッチは、MAP選択・学習後は補正値の増減調整の機能となります。
初期学習後、まずは“5”（標準設定）に設定して下さい。



・MAPの増減微調整の設定



FIコン2は車両個体差やお好みに合わせて、選択したMAPの補正値をロータリースイッチの設定で増減調整する事が出来ます。

設定はロータリースイッチの“5”を弊社セッティングの標準値とし、4・3・2・1と数値が少ない設定にするほど燃料噴射量をより減量する方向になります。

6・7・8・9・A・B・・・Fと数値が多い設定にするほど燃料噴射量をより増量する方向になります。

ただし、“0”は初期設定専用ですので、0に設定するとエンジンが停止します。

なお、燃料補正の微調整は全回転域を増減しますので、数値を大きく動かすとアイドルリングしなくなったり、特定の回転域で段つきを起こしたりする事も考えられます。

特に必要のない限り、標準設定である“5”設定にてご使用下さい。

また調整は、キーOFF時・エンジン運転中問わず変更可能です。

△警告：走行中は危険ですので変更しないで下さい。重大な事故の原因となります。

動作確認

△警告：エンジンを始動させての点検は、必ず換気の良い場所で行って下さい。密閉した様な場所では、エンジンを始動させないで下さい。（一酸化炭素中毒になる恐れがあります。）

△注意：下記に記したLEDの点灯パターンと異なる場合は、配線の接続不良や学習設定の不良などが考えられます。本取扱末尾のトラブルシューティングの内容に従い各部の確認を行って下さい。

・ 選択されているMAPの確認

F Iコン2本体のロータリースイッチは、**選択しているMAPの増減調整量**を示しています。

その為、ロータリースイッチを見ただけでは、現在選択しているMAPが何番であるか判断出来ません。

下記方法で選択されているMAPの番号を確認する事が出来ます。

1. キーOFFの状態、スロットルを全開位置に保持します。
2. スロットル全開位置を保持したまま、キーをONにします。
3. 赤と緑のLEDが同時に点灯し、緑LEDが3回点滅し、赤・緑ともに消灯します。
その後、緑LEDだけが点滅を開始します。緑LEDが点滅し始めたらスロットルから手を離して構いません。
4. 緑LEDの点滅回数が、選択しているMAPの番号(学習させたSW番号)を示しています。
点滅回数をカウントし、選択しているMAPを確認して下さい。
表示パターンは、長い点灯(約0.7秒)と短い点灯(約0.2秒)の2種類があり、長い点灯は10の桁を示します。

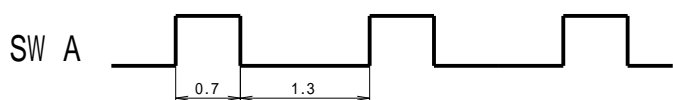
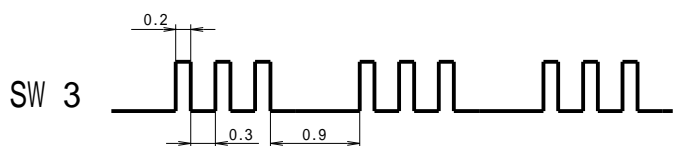
表示例)

MAP選択 3・・・短い点灯3回の繰り返し。

MAP選択 A (10進数表記で"10"相当)

・・・長い点灯1回の繰り返し。

(ゆっくりとした点滅に見えます)



(単位: 秒)

5. キーをOFFにします。
なお、緑LED点滅中はスターターを回してもエンジン始動出来ません。一旦キーをOFFにしてからエンジン始動を行って下さい。

・ 動作確認

1. F Iコン2のLEDを目視しながらキーをONにします。
赤と緑のLEDが同時に点灯し、緑LEDが3回点滅し、赤・緑ともに消灯します。
2. エンジンを始動後、正常にF Iコン2が動作していれば緑LEDが点灯します。
また、エンジン回転数が純正レプリミット回転数を超えている間は赤LEDも点灯します。

外装部品などの復旧

F Iコン2の動作確認が終わりましたら、配線類の挟み込みなどに注意し、取り外した外装類を元通り復旧します。

△ 注意: 必ずサービスマニュアルに規定された締め付けトルクを守る事。

ラバーキャップとパネルについて

・ F Iコン2のセッティングを行う際に、ロータリースイッチを回す時のみラバーキャップを取り外して下さい。

△ 注意: ラバーキャップ無しで走行すると、埃や水などが浸入しF Iコン2が故障する原因となります。
走行時は必ずラバーキャップを取り付けるか、後述のパネルを取り付けて走行して下さい。

・ セッティングの必要が無くなれば、F Iコン2に出荷時に貼り付けてあるスイッチ部分が開いているパネルを剥がし、キット付属のスイッチ部分が透明の物に張り替えて頂く事で、防塵・防滴性能が向上し、無用のトラブルを防ぐ効果があります。

△ 注意: パネルを貼り付ける際は、F Iコン2上面の8角の凹面内に、正確に貼り付けて下さい。
凹面からずれて淵部分にパネルが乗り上げてしまうと、隙間から埃や水などが浸入し、F Iコン2が故障する原因となります。

レストアハーネスComp.について

ハーネス-1Comp.とハーネス-2Comp.の3Pコネクタに、F Iコン2を接続する代わりに付属のレストアハーネスComp.を接続すると、外装類を外さなくても簡単に純正ECUでの燃料噴射制御に戻す事が出来ます。

F Iコン2をご使用になる場合は、常時携帯しておいて下さい。



レストア
ハーネスComp.

△ 注意: ハーネス-1Comp.とハーネス-2Comp.を直接接続しないで下さい。純正ECU破損の原因となります。



エンジン仕様別 MAP 選択表

- ・下記セッティング表は、フルノーマル車もしくは全て弊社製パーツを装着した場合の表となります。
- ・エンジン仕様に合わせたSW番号を初期設定時に学習させて下さい。
- ・あくまで弊社でテストを行ったセッティングですので、車両個体差や外気温や標高、ライダーの体重などの外的要因により、必ずしもベストセッティングではない場合がありますので、予めご了承下さい。

SW	エンジン仕様
0	-
1	ノーマルピストン + ノーマルカムシャフト + ノーマルマフラー (フルノーマル車)
2	ノーマルピストン + ノーマルカムシャフト + 弊社製オーバルマフラー
3	ノーマルピストン + 弊社製カムシャフト + ノーマルマフラー
4	ノーマルピストン + 弊社製カムシャフト + 弊社製オーバルマフラー
5	弊社製ハイコンピストン + ノーマルカムシャフト + ノーマルマフラー
6	弊社製ハイコンピストン + 弊社製カムシャフト + 弊社製オーバルマフラー
7	弊社製ボアアップ + ノーマルカムシャフト + ノーマルマフラー
8	弊社製ボアアップ + ノーマルカムシャフト + 弊社製オーバルマフラー
9	弊社製ボアアップ + 弊社製カムシャフト + ノーマルマフラー
A	弊社製ボアアップ + 弊社製カムシャフト + 弊社製オーバルマフラー
B	-
C	-
D	-
E	-
F	-

設定1～6のMAPはレブリミット回転数を12000rpmまで引き上げる事が可能となっていますが、設定7～AのMAPは11000rpmまでとなります。

上記表で、エンジン仕様が[-]となっているSW番号には、データが入っておりませんので設定しないで下さい。

トラブルシューティング

キーONにしても、LEDが点灯も点滅もしない。	<ul style="list-style-type: none"> ・キルスイッチがOFFになっていないか確認して下さい。 ・FIコン2本体に電源が来ていない事が考えられます。キーONでサブコード-1及びハーネス-1Comp.の黒/青コードにバッテリー電圧が掛かっている事を確認して下さい。 ・緑コードの丸アース端子が確実にフレームアースに接続されているか確認して下さい。
キーONにした際、緑と赤のLEDが点灯したままになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・スロットルポジション及びMAP選択の初期設定がされていない状態です。初期設定を行って下さい。
エンジンが始動しない。	<ul style="list-style-type: none"> ・桃/白コードに取り付けるギボシ端子のオス・メスが逆になっているとエンジンが掛かりません。配線接続を再確認して下さい。 ・取り付けた初回の始動時であれば、ロータリースイッチは“5”になった状態で始動しているか確認して下さい。
キーONにした際、赤LEDだけが点灯したままになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・正常にスロットル開度信号を読み込めていない状態です。黄色コードの接続を確認して下さい。
エンジン始動後、緑LEDが点灯しない。 エンジン回転が上がらない。	<ul style="list-style-type: none"> ・正常にクランクパルスを読み込めていない状態です。ブランチハーネスComp.と青/黄コードの接続を確認して下さい。
エンジン始動後、緑LEDが点灯する時としない時がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・エンジン始動時にスロットルをあまりながらセルを回すと、このような症状になる場合があります。スロットルをあおらずに、エンジン始動して下さい。
セッティングが合っていないように感じる	<ul style="list-style-type: none"> ・エンジン仕様に合致したMAPが正しく選択されているか確認して下さい。 ・エンジン運転中はロータリースイッチの設定が、MAP番号ではなく、“5”の標準設定になっているか確認して下さい。

株式会社 **SPECIAL PARTS 武川**

〒584-0069 大阪府富田林市錦織東三丁目5番16号
TEL 0721-25-1357 FAX 0721-24-5059
URL <http://www.takegawa.co.jp>